

令和4年度 学校評価書 (自己評価と学校関係者評価の結果と考察)

東近江市立能登川北小学校

令和 4年 9月 30日作成

<本年度の重点目標>

- 学力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A=優れている(優れている状況にある ・ 数値基準90%以上)
- B=良い(良い状況にある ・ 数値基準80%以上) ※B評価を細分化し、B+、B-を追加している。
- C=おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある ・ 数値基準70%以上)
- D=要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある ・ 数値基準70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○見通しをもち規則正しいルーティンで学習に集中できるよう週予定などで流れを知らせた。入り授業で表現力が養える授業を目指している。
 ○校内研究担当としては、それなりに成果のあった1学期になった。研究構想資料で研究の方向性を示し、トップバッターとして公開授業を行うことで、どのような授業を目指しているのかを具体的な形として示せたように思う。目指すべき方向性の提示が研究授業の一時期のみになってしまっているため、月に1回程度研究だよりを発行することで、方向性の確認を行えるようにしたい。
 ○学力向上担当としては、反省点の多い1学期になりました。年度当初に、「学力向上策の提案」「我が校の学び力向上策の提案」という形で方向性を示したものの、その後の経過を確認できないまま1学期が終わってしまいました。夏季休業中に、「全校統一した朝学習の時間の使い方」「自主学習の捉えについて」等の具体策の準備を進めたい。
 ○非認知能力の育成の観点で、日々の実践を組み立てられるよう意識できた。
 ○初任者をはじめ、職員の様子に気を配りながら、励ましの声をかけたり相談ののりたりしている。
 ○たてわりでの活動がもう少しあれば、下学年がもっと、5、6年がどんな風にみんな遊びやたてわり活動を考えているのかを実際に見て、成長できるのではないかとと思う。
 ○小学校での学習規律や学校のルールなど、丁寧に指導した。ただルールを教えるだけでなく、「何のために」するのかを伝え、子どもたちが必要性を感じ、行動できるように促した。
 ○困ったときには、知恵を出し合って課題を解決することができる。
 ○友だちが困っているときに、声をかけてあげたり、手を差し伸べてあげたりできる。
 ○児童理解に努め、一人ひとりに合った方法で関わるように心掛けた。また、支援の必要な子に関して、ケース会議や特別支援委員会で現状と課題について話し合い、今できることに精一杯取り組んだ。
 ○毎朝の昇降口での受け入れ、いじめアンケートの集約をしながら、今後気をつけて見ていきたい児童を探った。
 ○学級通信で学校での子どもたちの様子を伝えるようにした。1年生は、特に学校の様子が気になると思うので、子どもたちの学校での様子が伝わるようにこれからも続けていきたい。
 ○校舎の老朽化に伴う修繕箇所や要望について、教育施設課に積極的に働きかけている。また、自分の手でできる環境整備(除草、蜘蛛の巣とり、整理)についても時間を見つけて取り組んでいる。
 ○学校全体のことを考え、危機管理意識をもって、きちんと自分の意見や考えを発信している
 ○保護者や地域の方への情報の発信は、すぐできていると思います。懇談会でも、HPから様子がわかることがうれしいとおっしゃっている保護者の方がおられた。
 ○その他、キャリア教育、国際理解教育等、校務分掌として任されていることを中心に、更なる推進に尽力したい。
 ○小集団であることで、穏やかな心で仲間と仲良くして生活出来ている。変化がないことが、相手や、自分の存在を決めつける環境にあることが残念と感じる場面がある。
 ○健やかな心からはいつも笑顔があることだと思うと、もっと笑顔がみなぎるように多くあってほしい。粘り強くは、基礎学力を身につけてステップアップするように諦めずに取り組ませることが可能な状況だと考えると、まだまだがんばるところがある。
 ○地域のボランティアさんに支えられながら、学校環境が整えられ、PTA本部役員を中心に全体が教師と連携して運営されている。学校側からのお願いが大ききようにも感じるところがあると感じる。
 ○児童理解については、担任以外の目で見本児について「〇〇してたよ。」など、教えてくれるので、全職員で見守る形態ができていて大変ありがたく感じる。
 ○1学期行ったくりみっ子運動発表会で、全校の子がよい関係を築くことができた。特に6年生は、リーダーとして急成長する機会となり、大変喜ばしく思っている。今後も6年生については、その成長を見守っていききたい。

項	評価項目	成果目標・取組指標	自己評価	自校の改善方策
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「くりみのこ」について知っている保護者を80%以上にする。	B+	①「くりみのこ」の合言葉を、どのように各学年の発達段階において具現化し、子どもたちに意識させているかが問われている。日々の行動をそうした視点で評価し、子どもたちに返すことを継続し、学校全体として望ましい姿をもって行きたい。 ①以前に比べると、「くりみのこ」の合言葉を目にする機会がかなり増えた(学校だより、各教室掲示等)ように思います。指導者が日々の指導の中で学校目標を意識し、学級通信等でこまめに発信することでもう少し数値の上昇が期待できるのではないかと思います。 ①合言葉を保護者に尋ねたことがないし、自分からはっきり言えないので啓蒙活動がまだまだ必要あると思う。児童は、高学年のみではあるが、すらすら言えるところからすると、達成できていると思う。 ①学校目標や目指すべき方向性について具体的に示していただき、教職員が同じベクトルで進むことができてよい。 ①くりみっ子賞の創設や学校便り等での広報により、子ども達にも地域にも「くりみのこ」の思いが広がってきたように思う。ホームページへのアクセスが多いので、トップページにくりみのこの紹介を載せていただいたり、例えばくりみのこの特設ページを作っていただき、くりみのこの概略や表彰の様子(児童名はイニシャルにするなど配慮して)を掲載すると、保護者や地域にも取り組みを知っていただけたらと思う。(くりみっ子賞の表彰は、誰もが「なるほどな」と納得できる水準を保ちたい。ある程度の基準を共通理解できるとよい。)①学級通信を定期的に発行した。子どもたちは、配布するなりすぐに目を通し、自分のことが載っていると喜んでた。学校ホームページをどれだけ保護者が見ているかは分からないが、保護者と話している中で、ホームページのことが話題にあがることもあった。学級通信とホームページで内容がかぶっているところもあったので、ホームページがタイムリーなのに対し、学級通信が少し時期が遅れるので、難しいところだなと感じた。 ②縦割り活動が充実しているの、学校みんなとつながっていると感じられ、子どもたちにとってどこか安心感をもつことができていないのではないかと感じた。これからも、この取り組みがあるとよいと思う。 ②たてわり活動については、教職員も児童もだいたい5年間の見通しがもてるようになってきているが、6年間を見通したカリキュラムを意識しきれていない部分があると感じる。 ②5月にたてわり活動の目玉である運動発表会が終わってしまうこと、小規模校で全員がともだちという環境のため、たてわり班のつながりが薄い気がする。休み時間のたてわり遊びだけでなく、たてわりでできることがあると思う。 ②校務分掌上、見方・考え方の系統表の作成を進める立場にあるが、そこまで至っていないのが現状である。時間を生み出し、系統表の作成に尽力したい。
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年間を通して、たてわり活動の充実を図る。	B-	②たてわり活動の充実が本校の実践の柱。素晴らしいと思う。「上学年が下学年と一緒に〇〇する」といった上学年発信のものが中心になっているが、下学年発とか中学年発といった下の学年からの発信によるものも実現していくといいかなと思う。 ②学年ごとのカリキュラムはしっかりと立っているが、6年間を見通した縦軸を見える化できるとよいと思う。(例えば、1年の朝顔・2年の野菜～6年のハウスまでの縦軸。各実践の意図と狙い、つながりが現状は口伝になっているが、見える化すると、縦のつながりも意識できる。) ②縦割り活動は、少人数の強みで、上学年一人一人がリーダーとして活動することができている。個々に応じて指導が必須。
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・1年20分、2年30分、3年40分、4年50分、5年60分、6年70分の家庭学習の指導を続け、家庭学習の習慣が身に付いたと答える保護者の割合を80%以上にする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿勢を大切に、ノートづくりやめあてを意識した振り返りを通して、子どもたち自身が学びを実感できるような授業づくりに取り組む。	C	③「授業はよくわかる」と評価した児童は、89%だった。自身の授業を振り返ると、至らなかつた点も多いので、2学期は、「わかった」「できた」と子どもたちが感じられるよう、夏休みに準備をしておきたいと思う。 ③家庭学習においては、それぞれ保護者の求められているところが異なるので、達成することが難しいと感じました。宿題の時間、ていねいに、すぐに取り組むあたりが求められているところだと感じるので、2学期子どもたちと話すことも大切だと思った。 ③家庭学習についての話題は昨年度から出ているが、年度初めに「家庭学習の手引き」を配布して、なにか効果はあったのか検証する必要がある。 ③授業中、誰もが意思表示を示したり、全員が発言できるような発問の工夫をしたりすることで、表現力がついてくるであろう。 ③夏休みの間に、火、木、金曜日の朝学習の時間の使い方をもう少し探ってみたいと思う。何か学習にかかわることをやれば学力はそれなりに上がるのだと思うが、担任裁量になると、差が出てしまったり、準備の負担が増えたりして、本来は良いものもネガティブに捉えられてしまいがち。組織として一貫したものに組み入れるように、準備を進める。 ③自分の考えをしっかりともってはいはるものの、表現することに楽しさを見出していないように感じる。授業改善、学級経営の見直しを行い、積極的に自分の考えを話す児童が増えることを目指す。 ③どの学年でも、ペア学習やグループ学習など交流を通しての学びが意図的に仕組まれ、成果をあげていると思う。交流がより意味あるものとなるよう、考えていきたい。
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ベル着、学習のあいさつ、声のものをさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかり聞く児童の割合を90%以上にする。	B	③わかる授業を心がけているが、自学級では家庭学習と連動した取り組みが弱いと思う。保護者さんから宿題が少ないのでは、とのご意見もいただいているが、自主学習の取り組みができていないわけではない。宿題を増やすことが家庭学習の習慣をつけることにつながると思わないが、工夫のいることだと思う。 ③家庭学習についてのアンケート結果からみると、親の家庭学習や家読の肯定的な評価が低いのが気になる。学年によってばらつきもあるのだろうが、家庭学習の調査をして、子どもの家庭での様子を教師が、親責任にしてしまわないようにすることが大事なのではないか。何らかの親の不満というか、満足していない様子の数字の表れてはいるか。 ③家庭学習が定着し、やっつけから遊ぶ意識ができてきている。内容や字の丁寧さについては、不十分なところもあるので、これから指導していきたい。 ④授業中友だちの考え方、意見を聞こうとする姿が見られた。しかし、聞いただけで、分からない時、分からないと素直に進んで言える子どもが少ない。だから、分からないこと、困っていることを教師が取り上げ、話題にすることも大切だが、子どもたちの口から言えるような雰囲気づくりができるよう、いつも意識していきたい。 ④授業の時には、子どもたちが考え・意見を十分に発表することができる場を設定するようにする。

⑤	学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、読書が好きと答える児童の割合を80%以上にする。 ・図書日よりなどにより親子読書と呼びかける。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に（図書バッグなど）読書する本を常備させる。	B+	④校内研を通して、授業スキルが向上し、見方考え方を育てる意識も向上してきたとは思いますが、単級だからこそ、教員全体の底上げを図る工夫が必要だと感じる。 ④学習準備は低学年はできていない。ベル着もこの学校では、死語なのではないか。ベルが終わりにしかならないこともある。鉛筆の持ち方ももっと意識を高くさせたい。しかしながら、「学びのスタンダード」ということについて学習への意欲もあり、学習環境は整い大きな問題は無いように思われる。学年毎にちがいがあがるのだが、話を聞く児童が多いと思われる。 ⑤学校図書館の活用は、とても活用できていると思っている。利用率も、コロナ禍とはいえ、高い方ではないか。制限をせざるを得ないのが、とても残念です。目標設定の数値が高いので何とも言えないが、本が身近にある学校だと思えます。親子読書は、もっと何か仕掛けていくのが望ましいと思う。 ⑤英語が楽しいと感じられるよう、マーク先生と打合せをしたり、授業の時には、いつもより少しモチベーションを上げてたりすることで変わってくることもあった。 ⑤週に1回図書室を利用している。毎週学校司書による読み聞かせを子どもたちは楽しみにしており、紹介してもらった本からいろんな本に興味を持ち、楽しく読書をしている様子が見られた。保護者アンケートの結果から、家で進んで読書をしている子は少ないので、家読の取り組みを勧めながら、家でも読書の習慣をつけてほしいと思う。 ⑤高学年になり、読書をする機会が減ってきたように思う。時間は限られるのだが、借りる本の質や冊数で、カバーできるようにしていきたい。今年度からメディアコントロールと家読がタイアップされたので、取り組み値打ちも上がったと思う。子どもの成長段階に合わせて本を選んで勧めていきたい。 ⑤学校では読書をして家庭での読書習慣が身に付いていない、借りる本がシリーズもののみといった、読書習慣や読書傾向に課題がある。読書傾向の分析や、読書の質を高くする実践への取り組みを進めるとともに、学校での取り組みが情報発信も大切だと思う。自戒をこめてであるが、学校司書に頼る（お願いする）だけでなく、連携して授業を担当がきっかけでいくことが大切だと思う。担当として、夏休みに取り組みを進めたい。 ⑥ALTによって授業のクオリティに差が出ないよう、しっかりと授業者が準備しておく必要がある。 ⑥ALTがいるにもかかわらず、うまく授業に活用し切れていないのが現状。子どもたちはそれなりに英語の授業は好きだが、ALTが更なる力を発揮することで、まだまだ意欲、技能の向上の余地はあると思う。市教委が派遣会社と連絡を取り合い、必要に応じて研修を準備してもらおうとよいと思う。 ⑦少人数でありながら、話す力の弱さを感じる。友だちとの普段の会話は喋れるけれど、授業中となると、筋道を立てた話し方ができない。さらには、自信が持てず発表などもできないことがある。話し言葉と書く言葉の違いや、友だち・親・先生への会話の仕方をゆっくり丁寧に教えていきたい。 ⑦1年生でもペアやグループでの活動を取り入れ、交流時間をたくさん設けた。困っている子へ教える場面も見られ、みんなで解決しようとする雰囲気が出てきた。しかし、ペアワークでなかなか話が進まない子どももいるので、ペアの組み方や話型の提示など個別に支援が必要であると感じた。	
⑥	英語教育（外国語活動）の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	C	⑧1学期については、道徳の授業公開を実施していないので、2学期、3学期にできるようにしていく。 ⑧道徳は、実際の授業づくりの研修を行う必要がある。 ⑧校内でのあいさつはできている。お客様が来られた際も、自分からあいさつする子が多い。地域であいさつできるようになるには、地域の声かけが大切。 ⑧扱う教材にもよるが、【お話】を使ったやり取りは25分程におさめ、残りの20分程は価値に関する自分たちの実生活に関する議論を行う授業への転換を図る必要があると思う。 ⑧週に1回以上の道徳の授業を実施し、子どもたちの心を取り上げることで、子どもたちの心の充実につながると思う。夏休み中の研修でしっかりと学び、2学期の授業へとつなげたい。 ⑧フタバタンの道徳に陥っている。深める工夫が必要だと痛感している。 ⑧帰りはいいが、朝のあいさつは今一つの子もいる。地域の方にどのくらいできているのか気になる。子どもに問いかけてみよう。 ⑨自分からあいさつできる児童の割合が93%という結果から、「学校での生活は楽しい」96%と繋がりがあっていいのではないかと感じた。気持ちいい挨拶がこれからも続けられるなぜひ挨拶が出来ているのかなと振り返ることが大切だと思う。 ⑨（個人的な印象であるが）長年本校に勤務していて、年々子ども達の挨拶の課題が大きくなっている印象がある。転動してきた初年度、子ども達とすれちがうたびに、子ども達の方から挨拶をしてきて驚いたことを鮮明に覚えているが、現状は、こちらから声をかけないと挨拶が返ってこない。当時と今と何が違うのか考えてみると、「全校的なあいさつ運動」が思い浮かぶ。当時は4つの「あ」が子どもたちに浸透していて、最初の「あ」である挨拶の全校運動は特に力が入っていた。昇降口での教職員や子どもたちのあいさつ運動や全校児童が参加するあいさつの本など、あいさつの取り組みが「見える化」していたことで意識ができていたのかもしれない。これらの復活を求めつつも、何か具体的な	
(3)	道徳教育	⑧ 道徳教育の充実 ・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	C	⑩ 学級会で、多くの児童が自分の今の思いや、したいこと等、自分の思いを伝えられるようになってきた。学級全員が進んで話せる雰囲気づくりを2学期子どもたちと頑張っていきたいです。 ⑩ 行事や縦割り活動では、子どもが主体的に取り組むことを大切にしながら、本当に大切にしたいことを焦点化し、めあてを明確にして取り組むことが大切だと思う。教師も生き生きと主体的に取り組めることが、持続可能な特活だと思う。 ⑩ 学級内の諸問題の解決という部分がやや弱いかな。学級指導の部分と係活動に取り組む時間に充てることが多くなってしまっている。トラブルが少ないので、学活で「学級会」を行うことが少な目だが、「学校をよくする」視点を育てておくことは高学年に向け大切だと思う。 ⑪ 今はどうしても仕事の部分の交流になっているが、コロナが一段落したらお楽しみの部分にも取り組みたい。 ⑪ 「時間いっぱい掃除ができること」は、開始の時間など伝達の時間などがもう少し曖昧さが見受けられる。放送をうまく使って、もう少しキキキさせてはと思う。中学年が、中だるみで、集合が遅かったりが目立った。 ⑪ 時間いっぱいまで掃除を頑張る多くの子どもたちの姿を1学期見ることができた。少し話してしまったり等、振り返りでは意見が出ていました。それぞれに自覚があるのであれば、どうすれば話さないで掃除ができるようになりそう？など、考えることも大切なのかもしれないと思った。 ⑪ 児童の主体性に任せる前に、基本的な掃除の仕方を教えることも必要ではないか？ ⑪ 縦割り掃除は仲間づくりの理念としてはとてもよいと思うが、清掃指導の面では低学年も混ざった上での少人数での掃除という制約もあってか、十分に清掃ができていないことが多々あり、学級で追加掃除をすることが多かった。人数も少ないので、掃除場所を毎日使う場所に絞り込み、特別教室などは、曜日でローテーションを組むなどして、教室掃除にも少し人向けたい。 ⑫ 一学年の数も少ないことで、異年齢の集団での交流の実践が人間関係を培う要素は大きいと思います。もっと意図的に	
(4)	特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実 ・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。 ⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実 ・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。 ・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B B+	⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実 ・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B
(5)	人権教育	⑬ 人権尊重の精神と実践的態度の育成 ・年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。（いじめ防止） ・友達のよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。（「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など） ・教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。 ⑭ 保護者・地域と連携した人権教育の実践 ・人権にかかわる取組について、学年日よりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 ・日常的に、人権に対する意識を高める指導を継続的に行う。 ・人権週間で、全校的な取り組みを通して、人権意識を高める。	B C	⑬ 一学期は、一日の中で、自身の楽しかったことについて振り返り、友だちに紹介できた。2学期は、自己から他者に目を向け、友だちのよさを見つけ、伝えられるようにしていく。自己の心が満たされれば、他者を認められると私は感じています。お互いに認められるよう、努めていく。 ⑬ 人権週間の期間だけでなく、日常から相手を思いやって行動できるよう、友だちのよさを認める場を設定したり、子どもがそのような行動や声かけをできたことに教師が気づけば、その場でほめたりすることも大切だと思った。 ⑬ 一見平和そうに見えても、子どもたちの間に不穏な空気を感じることがある。常に教師がアンテナを高くし、子どもの小さなサインを見逃さないように気をつけ、しっかりと思いに寄り添うことが人権意識を高めることにつながる。 ⑬ 保護者からのいじめアンケートでは、あてはまらないという回答ばかりであったが、「学校での様子は分からない」「いけないことをした時はきちんと指導してほしい」という声もあり、学級で話し合っていることや指導している様子もその都度、学級通信などで伝えていけるとよい。 ⑬ 人権にかかわる取組の啓発はあまりできなかった。2学期には人権週間があるので、人権とは何かを子どもたちと考える時間を設けたい。 ⑬ 作品に対するコメントが後回しになってしまっています。反省をして、2学期以降実践に努めたい。 ⑬ 作品の鑑賞会でお互いの作品を見合ったり、教師の感想を伝えたりすることに取り組んだが、感想を書けなかった。2学期努力したい。 ⑬ 帰りの会では、友だちの良さを褒め合うことは出来たが、自分（個人）にとってうれしかったことを褒めることに陥っていた。発達年齢上、今は仕方ないが、もっとしかけていきたいと思う。発展させていきたい部分。 ⑬ 帰りの会などで、友だちのよい所やがんばりを出し合っている。互いの良さに気づき、自尊感情を高める機会としている。 ⑬ 本物のよさを見抜き認める集団にしていきたい。何でも拍手してオーケーではないはず。しかし、白黒はっきりさせて厳しいのも辛い。バランスが難しいが、白黒はっきりと厳しさを両方持ち合わせるようにしたい。	
(6)	環境教育	⑮ 共生を目指す環境教育の充実 ・SDG'sの17項目の視点を意識した活動を仕組む。	D	⑮ SDG'sとは、何か？知っているようで知らない言葉だと思いました。SDG'sとは何か知り、17項目の視点とは、例えばどんなことが当てはまるのか考える時間も大切だと思いました。職員室の本棚に大人向け？かもしれませんがSDG'sの本が6冊もあった。 ⑮ 少し意識すると、学習のほとんどがSDGsの内容と関わりがある。指導者の意識次第で、もっと児童の意識を高めることができるのではないかと。 ⑮ あてはまる視点がないか、定期的に照らし合わせたい。 ⑮ 各学年の個々の取り組みは充実していると思うが、点（その学年の取り組み）と点で線（学校全体の縦の系統）になっていない。縦の軸（例えば各学年の総合的な学習や環境教育の軸）をはっきりさせておかないと、担任の采配で左右し「去年はやったけど今年やらなくて、次の年はまたやった」といったことが起きる。北小は単級で、担任一人の思いで何でも変えられるが、教育課程の軸となる部分は、職員全体で共通理解して進めるべきではないかと思う。 ⑮ 今期、校内でこの言葉を意識して使うことが無かった。子どもたちの活動の中に触れることもなかった。コロナ禍で実践しにくくなっていると思う。アルミ缶集め、愛校作業など。小さなことから取り組むことができると思うので、是非実践していきたい。	
(7)	国際理解教育	⑯ 多文化社会に生きる国際理解教育の推進 ・ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。	C	⑯ 【3年】マーク先生との外国語活動の授業づくりを通して、外国語に慣れ親しみ（挨拶、数、好きなもの等）、友だちと英語を通してコミュニケーションを図ることができるようになってきた。母国の文化については、多く触れられていなかった。2学期に子どもたちが感じられるよう改善していきたい。 ⑯ 外国語の時間以外に、ALTと合同で学習できる時間を仕組もうとすることで、国際理解教育の学習が実現できる。 ⑯ 初めの自己紹介以降、ALTの先生から文化について話を聞けていないので、その時間を設けていきたい。 ⑯ ALTにあらかじめお願いをしておくと、自国の文化の話を紹介してくれます。また、更なる国際理解教育の充実のために、ALT頼みだけにせず、自分の知っている多文化の情報の周知を図る。 ⑯ ALTとの出合いのシーンでは、違いを知る学習は出来たが、興味を持ったりするなどの発展はなかったです。低学年なので、準備段階と思っている。 ⑯ マーク先生と事前に打ち合わせそのような機会を増やしたい。	

(8) 生徒指導	⑰ いじめを許さない集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合を90%以上にする。 	B+	<p>⑰いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合が94%という高い数値は、学級づくりを子どもたちが主体的にできるよう担任の先生方が働きかけられていたり、学校の体制が整えられていたりすることから成された結果だと感じました。</p> <p>⑰小学校でのルールについて細かく指導をした。「守らないといけないから」ではなく、「なぜ守らないといけないのか」について考えさせるようにした。特に、廊下で走り回って遊んでいる子が目立った。日が経つと、意識が薄れてきている子もいたため、声かけをしていく必要がある。</p> <p>⑰少人数だからこそ固定化した見方や人間関係のこじれがあるのではないかと、学校生活の中で、人を多面的に見ることのよさを感じさせたい。</p> <p>⑰自分勝手な発言や態度が見られたら、道徳や学級会などでも取り上げ、話し合い活動を仕組む。学級に沿ったテーマで取り組むことが有効になる。</p> <p>⑰⑱教育相談週間などを通じて、児童の見えない細かな気持ちを知ることができるようになっていきます。職員室でも養護教諭を中心に情報の共有化ができています。</p> <p>⑰打ち合わせ等で、定期的に生徒指導問題や話題に触れることで、学ぶことも多い。また、チームで取り組んでいただける体制がとれているので、ありがたい。</p> <p>⑰学校はアマゾンではないので、今日注文したことの結果が明日に出るわけではない。しかし、即断即決を求めるのは世の流れ、時間をかけたいことは取り組みの方針について説明し、少しずつ伝えておかねばならないだろう。</p> <p>⑱10分より短くてもよいので、短く、回数を増やして接することが有効かと思う。</p> <p>⑱アンケートで拾える情報は、必ず校内で共有し、対策を講じる必要があるが、一番大切なのは、日常の様子から「小さな違和感」を見逃さない姿勢である。</p>
	⑱ 学校不適応児童生徒へのきめ細かな対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。 	B+	<p>⑱ゲストチャートなどを計画的に招き、いろいろな人との出会いを大切にします。</p> <p>⑱キャリアパスポートを書いて、活用するところまではできていなかった。1学期末に自分が目標のどこまでたどり着いたかや、残りのために何をしていくかを考える時間を設定するべきだった。</p> <p>⑱キャリアパスポートの活用を、学期に1回だけの記入に留めず、何度も自分の立てた目標を見直す機会を設けるといいと思う。</p> <p>⑱キャリアパスポートは、書かせているだけに陥りがちに感じている。自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養うことができると思えない。書く作業が、場の設定とはならないのではないかと常々思っている。使い方次第なのだろうが、書かせるだけではまり込んでいる。</p> <p>⑱今学期は、キャリア教育らしい教育ができなかった。学年末に向けては、ここは北小小学校区らしいキャリア教育（先輩の経験者の話）ができてほしい。</p>
(9) 進路指導	⑲ キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。（キャリアパスポートの実施） 	C	<p>⑲個別の支援計画を作成した。保護者の方とも連絡帳や電話で密に連絡をとり、連携を図った。年度末に新任が決められているのであれば、園からの引継ぎを1年担任が聞き取りをしてもいいのかなと思った。</p> <p>⑲特別支援の視点で考えることが、だいたひ浸透してきたとは思いますが、児童の将来のことまで見据えた支援ができるよう、研修を積むことが大切。</p> <p>⑲集団が穏やかだと個別の課題は見えにくいが、意識して見ていきたい。</p> <p>⑲「同じことができること」を求めないようにすることは忘れないようにしたい。</p> <p>⑲担任の先生が立てた個別支援の「あて」や「支援」が有効であったかの振り返りを行う機会に特別支援委員会のメンバーも加わり、最新の児童の実態把握・今後の支援の共通理解としていけるとよい。</p> <p>⑲個別に配慮していることや気になることについては、小さなことであっても保護者に伝え、連携を図る。</p> <p>⑲支援計画・指導計画など常に見直し適切な支援・指導に当たるようにする。</p>
(10) 特別支援教育	⑳ 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 必要に応じて支援体制づくりを行う。 学期1回以上の特支推進委員会を実施する。 	B+	<p>⑳個別の支援計画を作成した。保護者の方とも連絡帳や電話で密に連絡をとり、連携を図った。年度末に新任が決められているのであれば、園からの引継ぎを1年担任が聞き取りをしてもいいのかなと思った。</p> <p>⑳特別支援の視点で考えることが、だいたひ浸透してきたとは思いますが、児童の将来のことまで見据えた支援ができるよう、研修を積むことが大切。</p> <p>⑳集団が穏やかだと個別の課題は見えにくいが、意識して見ていきたい。</p> <p>⑳「同じことができること」を求めないようにすることは忘れないようにしたい。</p> <p>⑳担任の先生が立てた個別支援の「あて」や「支援」が有効であったかの振り返りを行う機会に特別支援委員会のメンバーも加わり、最新の児童の実態把握・今後の支援の共通理解としていけるとよい。</p> <p>⑳個別に配慮していることや気になることについては、小さなことであっても保護者に伝え、連携を図る。</p> <p>⑳支援計画・指導計画など常に見直し適切な支援・指導に当たるようにする。</p>
	㉑ 個別の教育支援計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画を活用する。 各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。 	B+	<p>㉑点検時、電池が切れている等により、防犯ブザーが鳴らない児童がクラスに1名くらい出てしまう。肝心な時に鳴らせることで、身を守ることができると可能性が高まるので、点検時だけでなく、日ごろから自分で確認する習慣もあってほしいのではないかと考えた。</p> <p>㉑児童が自らの安全のために、自分で考えて行動しようとする意識を高める取組が必要（形だけの避難訓練にならないように）</p> <p>㉑トイレに行くときに走っている児童を見かけることが多く、2階のトイレの入ったところで転倒する児童がいる。急ぎたい気持ちもわかるが掃除の後などは床も滑りやすくなっているため危ない。</p> <p>㉑防犯ブザーのチェックは、定期的に行われているので、そのタイミングで「危険に思うこと」と聞いたり伝えたりし、日常にある危険を意識させたい。</p> <p>㉑毎日声掛けを続けると早寝が定着してきた。これからも朝寝や声掛けを続けていきたい。㉑早寝、早起き、朝ごはんの子どもたちの肯定的評価の割合が90%という結果は、私自身は、すごいなと感じました。お忙しい毎日の中で、家庭のリズムや環境もあるので、保護者の方のご理解も残りの10%の中にも含まれているのではないかと思います。㉑地域的に指導がとくに必要な所ではないし矯正する点は大きくないと思います。できていることに喜び、更に生活習慣への期待を大きくして、ゲーム、テレビなど自律することができるように指導をしていくのは、どうだろうか。</p> <p>㉑朝ごはんはほとんどの児童が食べてきていると思うが、食べ方などを聞いてみると、時間の余裕がなかったり、食べる物が偏っていると気づいていたりする。寝る時間の方も注目していきたい。</p> <p>㉑子どもの話を聞いていると、早寝を守れていない子どもも多くなるように思う。なぜ早寝する方がいいのかを子どもに考え</p>
(11) 保健安全教育	㉒ 安全教育の充実と安全管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月1回防犯ブザーの点検を実施する。 児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。 	B	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
	㉓ 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。 	B+	<p>㉒「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合が93%という高い結果から、多くの保護者が満足して下さっている。そうでないその他の保護者の方々の想いを知っておくことも大切だと感じた。</p> <p>㉒積極的に学校のために動いてくださっている学校運営協議会のメンバーがいる。大変ありがたい。教職員にもして下さっていることを周知したい。</p> <p>㉒保護者の信頼・協力を得るために必要なこと…。一度、みんなで話し合ってみることも大切かと思う。</p> <p>㉒教材ができるものが多い地域なので、地域人材など有効に活用したい。</p> <p>㉒今のホームページ更新のシステムが今後も持続可能なものなのか、そろそろ考えなければいけない時期に差し掛かっていると思います。今後も今のシステムを継続するのであれば、誰が引き継ぐのか、どのように進めるのか等具体案を相談しなければいけない。</p> <p>㉒ホームページに、間違ったことが載っていることがあったと指摘されたことがある。精査して正しく掲載されるのが良いと思っています。スピードの時代ではあるが、訂正をしたり、謝罪、不信を抱かせるということになるくらいならペースの変更を考えてもいいのではと思う。しかしながら、子どもが学校のことを話さないで、ホームページから尋ねることもあると聞いたので情報発信は必要だと思う。</p>
(12) 研究・研修	㉔ 教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。（確かな学力・主体的に学ぶ力の育成） 常に学び続ける教師をめざす。（授業改善に向けた校内研究6回実施） 研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。（日ごろの授業改善） 	B-	<p>㉒学校施設を安全に使用するため大きな異変に気づいたら、決まった点検日だけでなく、気づいたときに報告したり、メモを残しておいたりするとよいかもしれない。</p> <p>㉒形だけの安全点検に終わらないよう、「児童の安全」という視点でしっかりと点検していく。</p> <p>㉒（病院に行くレベルの）子どもたちのけがの発生場所や発生状況を共有したい。実際に校内で起きたけがや事故（ヒヤリハット）の事例検討や共通理解もしておく必要があると思う。けが発生場所校内マップを作って昇降口に貼り、児童に見える化しておくのも一案だと思う。</p> <p>㉒異動して初めてですが、整っていると感じている。しかしながら、宝のような教材が、眠っていることもあるので、主任任せせずに、多くの人に関わって片付けなどをすると交流になるかと思えます。掲示物が古すぎるものは、早めに、廃棄したほうが良い。</p> <p>㉒冷暖房をつける基準が教室によってばらばらで、少々暑くても28℃を超えていないので我慢しているときもあるが、他の教室に行くときキンキンに冷えている時もあり・・・子どもたちの体調もあるので、考えたい。</p>
	㉕ 教職員の危機意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。 危機管理マニュアルの周知。 シェイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。 	B	<p>㉒「子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合が93%という高い結果から、多くの保護者が満足して下さっている。そうでないその他の保護者の方々の想いを知っておくことも大切だと感じた。</p> <p>㉒積極的に学校のために動いてくださっている学校運営協議会のメンバーがいる。大変ありがたい。教職員にもして下さっていることを周知したい。</p> <p>㉒保護者の信頼・協力を得るために必要なこと…。一度、みんなで話し合ってみることも大切かと思う。</p> <p>㉒教材ができるものが多い地域なので、地域人材など有効に活用したい。</p> <p>㉒今のホームページ更新のシステムが今後も持続可能なものなのか、そろそろ考えなければいけない時期に差し掛かっていると思います。今後も今のシステムを継続するのであれば、誰が引き継ぐのか、どのように進めるのか等具体案を相談しなければいけない。</p> <p>㉒ホームページに、間違ったことが載っていることがあったと指摘されたことがある。精査して正しく掲載されるのが良いと思っています。スピードの時代ではあるが、訂正をしたり、謝罪、不信を抱かせるということになるくらいならペースの変更を考えてもいいのではと思う。しかしながら、子どもが学校のことを話さないで、ホームページから尋ねることもあると聞いたので情報発信は必要だと思う。</p>
(13) 地域との連携	㉖ 保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 ふるさと「くりみ」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。 	B	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
	㉗ ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。 	A	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
(14) 施設・設備	㉘ 施設・整備の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。 	B+	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
	㉙ 学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。 	B+	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
(15) その他	㉚ 幼児児童生徒の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。 	B+	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>
	㉛ 保護者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。 	B	<p>㉒子どもたちが主体的・対話的で深く学ぶための授業実践を提供していただき、子どもたちが主体的に活動するための一つの手立てとして、既習内容とのスレや経験とのスレ等、スレが大切なことを学ばせていただいた。この手立てを本時の内容に生かせるよう、日々改善に努めたい。</p> <p>㉒授業改善の意識は高まっている。さらに教員全体の指導力向上のための研修が必要。</p> <p>㉒先生方から教えていただいたことの実践が出来ていない。夏休みの間にどの教科も授業の見通しができるようにしたい。</p> <p>㉒研究授業、事後研究会での学びが普段の授業に生かせるように、「学び合い通信」だけではなく、研究日よりしてもダブルで発信できるように尽力する。</p> <p>㉒若手教員を育てるOJTを充実させることが喫緊の課題である。</p> <p>㉒初任者が先輩教員の実際の授業を見て学ぶ機会を設定する必要がある。</p> <p>㉒校内研究会を基盤に教師の授業改善を目指していきます。学年部の協力も大きな力になる。</p> <p>㉒研究授業や職員研修が有意義で、教師力をつけるのに大変ありがたい。周りの先生からもいろいろ聞けるので、勉強になる。</p> <p>㉒重い物ではなく、ワンポイント研修（TIPS）をたくさん持ちたい。</p> <p>㉒危機管理については時々ヒヤッとすることがある。全体での情報共有を当たり前とし、個人の判断で行動しないことを</p>